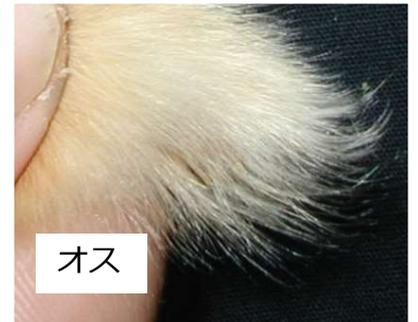




名古屋コーチン卵用新系統「NGY6」左がメス、右がオス



鮮やかな桜色の卵



オス



メス

NGY6を用いて産まれたヒナの羽根の形の違い

名古屋コーチンで初めて羽根の形の違いでヒナの雌雄鑑別が可能となる卵用新系統「NGY6」を開発

名古屋コーチンの卵用新系統「NGY6」が完成しました。

NGY6系統は、現在の卵用名古屋コーチン実用鶏を構成するNGY4系統の後継系統として開発したもので、特徴は次の3点です。①NGY6系統を用いることで、名古屋コーチンでは初めて、羽根の形の違いからヒナの雌雄が容易に鑑別できます。②特徴的な「桜色」の卵殻色が、

NGY4系統より鮮やかに発色し、卵殻表面にある桜吹雪のような「白斑点」が現れる割合が高くなります。③産卵性は、産卵率や卵重がNGY4系統と比べて、それぞれ8%程度良くなります。

NGY6系統を用いた卵用名古屋コーチン実用鶏のヒナは、2025年12月ごろに畜産総合センター種鶏場等から生産者に向けて販売を開始する予定です。(畜産研究部)



アライグマが自ら「扉」を開けて入るユニークなワナ



アライグマが扉を開けて捕獲器に入る様子が動画で見られます。

特定外来生物に指定されているアライグマは、全国的に生息数を拡大させており、農作物に被害を及ぼすだけでなく、生態系破壊、人への感染症媒介の不安等から捕獲強化が望まれています。しかし、従来の捕獲器（箱ワナ）では、アライグマ以外の動物（ペット類や野生獣類など）が誤って捕獲される可能性があります。

そのため、アライグマのみを選択的に捕獲するワナの開発に取り組みました。

アライグマの大きな特徴である前肢の指は5本あり、ネコやタヌキ等と比べて著しく長く、人間のように物を器用につかむことができます。

そこで、捕獲器に筒を取り付け、アライグマが前肢を伸ばしエサをつかみ取ることで扉が開く仕掛けを作りました。この捕獲器はイヌ・ネコ等のペット類やタヌキ、キツネ等の野生獣類は扉を開けることができず、アライグマだけを捕獲することができます。（環境基盤研究部）



地元待望のエゴマ新品种「No.7」を開発 (令和6年1月品種登録出願)



「No.7」の花 開花40～50日後に種子を収穫



「No.7」の種子 エゴマ油の原料



「No.7」:葉が黄化し収穫期の状態
「名倉」:約1か月後に収穫期の予定
(2023年9月19日に撮影)

県内では、中山間地域を中心にエゴマが栽培され、特産品である五平餅のタレやエゴマ油に加工され、地域振興に寄与しています。

主に栽培されている在来種の「名倉」は収穫量が多い点が評価されています。しかし、収穫が10月末～11月上旬で早霜の被害を受けやすいこと、収穫時期が集中して労力が不足する等の課題がありました。そこで、エゴマの安定生産を図り地域の活性化を目指すため、エゴマ早生品種「No.7」を開発しました。

「No.7」は、「名倉」より約1か月早く収穫できるため、早霜の回避が可能で生産が安定します。「名倉」と組み合わせることで、収穫時期の分散も可能です。単位面積あたりの種子収量は、密植栽培により「名倉」とほぼ同等となります。

また、「No.7」は、草丈が短く、茎径が細いことから、剪定ばさみによる刈り取り収穫が容易な点が生産者から評価されており、作業の軽労化が期待できます。「No.7」は、本県エゴマ産地の主力品種の1つとして普及することが期待されます。
(山間農業研究所)

イチゴ「愛経4号」の特性を生かす栽培指針を作成

2021年に品種登録出願した「愛経4号」は大果・多収・良食味といった特徴をもち、2024年秋から「愛きらり®」として本格出荷が始まります。

そこで、「愛経4号」の安定生産技術をまとめた栽培指針を作成しました。県内で栽培されている主要品種と比較した特性を紹介するとともに、育苗期の施肥管理や定植後の給液管理などの試験成果をまとめ、図表や写真を用いて解説しています。内容は、二次元コードよりダウンロードできます。
(園芸研究部)



「愛経4号」の栽培指針



最強・最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」の早期発見法を開発

全国各地の水田で外来の水生植物「ナガエツルノゲイトウ」の生息域拡大が問題となっています。一度定着してしまうと根絶が非常に難しいため、早期発見、早期対策が重要です。

そこで、水や水路の堆積物から、簡便かつ迅速にナガエツルノゲイトウのDNAを検出する技術を開発しました。これにより、定着の有無や分布状況を迅速に把握することができます。
(環境基盤研究部)



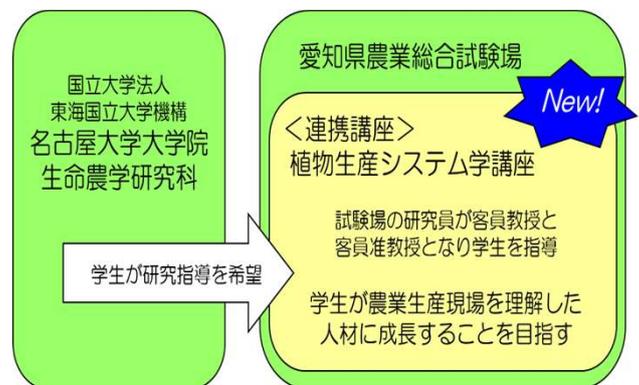
ナガエツルノゲイトウ 水路の堆積物からDNA抽出

本研究は農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」で実施しました。

名古屋大学との連携講座を設置

当场では、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学大学院生命農学研究科と連携大学院制度*に基づく協定を締結し、2024年4月1日から連携講座(講座名:植物生産システム学講座)を設置しました。この講座では、水稻や小麦品種の育種改良や高度な栽培技術に関する研究を行います。

今回の講座設置による人材の育成や研究成果の創出により、本県農業の振興を図ることを目指します。
(研究戦略部)



連携講座のイメージ図

*大学院設置基準第13条により大学院教育の実施にあたって学外の試験研究機関等の施設・設備や人的資源を活用する制度

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 長久手市岩作三ヶ峯1-1 TEL 0561-41-8963(企画調整室ダイヤル) <https://www.pref.aichi.jp/nososi/>